

# 野生動物との境界線を考える

山に囲まれた舞鶴市には、さまざまな野生動物が生息しています。近年では、山や森だけでなく、町の近くにも姿を現すことが増えてきました。なぜ人間と動物の距離が近づき、被害が発生するのか。私たちの暮らしを守るためにできることを考えましょう。

《農林課》

## なぜ町へ現れるのか

背景には「山と人の関係の変化」があります。かつて、山を管理した担い手が不足し、山は荒廃していきました。一方で動物の数は増加し、餌となる植物が減少した結果、動物が、餌などを求め、山裾や町中へ移動しています。また、人里近くの耕作放棄地の草むらは、動物たちの絶好の隠れ場所や通り道に姿を変えています。これによ

## 舞鶴市に生息する野生動物たち

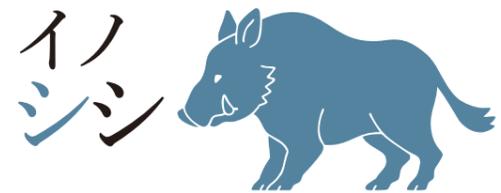
市内最多の農作物被害

### ニホンジカ



農作物や墓地の仏花などを広範囲に食べ尽くします。自動車や鉄道との事故も近年多発しています。

シカに次ぐ被害



エサを探して、田んぼのあぜや水路を掘り返します。

知能が高い

### ニホンザル



知能が高く、一度「餌がある」と覚えると繰り返し、同じ場所に現れます。威嚇するため、子どもや高齢者はより注意が必要です。

鋭い嗅覚

### ツキノワグマ



非常に鼻が利き、果物や木の実などを狙い、町へ下りてきます。

生活圏の隙を狙う動物たち



### その他の動物

アライグマやカラス、ハクビシンが、庭を荒らしたり、屋根裏へ侵入したりすることによる生活環境被害が発生しています。

### 春先はクマの活動が活発に!

春先は、親グマが子グマを連れて活動することが増えます。人間を警戒しながら行動しているため、十分注意してください。対策方法は市ホームページに掲載しています。右コードからアクセス可。



り、人目を気にせず山や森から離れた場所まで移動できるようになったことで、住宅街への出没や車両との衝突事故が増加していると考えられます。

## 地域でできる取り組み

動物の出没を抑え、安全な暮らしを守るには、市が推進する鳥獣害対策と市民の皆さんの手による地域を守る取り組みが必要です。

## 隠れる場所をなくす

住宅地の近くにある茂みの草木を刈り、見通しを良くしましょう。隠れ場所をなくし、動物にとって「居



茂みの中を移動するシカ

心地の悪い場所」に変えることが、市街地への侵入を防ぐ大きな力となります。

## 餌がない状況をつくる

庭先のカキなどの放置果実や生ごみは、動物を町へ呼び寄せる「餌」となります。「あそこに行けば餌がある」と学習した動物は、繰り返し現れるようになります。地域全体で「ここには食べ物が無い、寄る価値のない場所だ」と動物に認識させましょう。

カキなどの果実は、春先の実が小さいうちに食べない分を摘み取ることも対策になります。



放置しているカキは野生動物の餌に

## 地域に居着かせない

日中に現れるサルには「追い払い」と「戸締まり」が必要です。サルは無施錠の扉や2階からも侵入します。確実に施錠しましょう。花火などを使い「ここは怖い場所だ」と認識させましょう。市では追い払いの効果を高めるために、自治会向けに花火の支給も行っています。

## 地域と行政が一緒に

野生動物と私たちは同じ場所です。暮らしています。その中で、私たちの命や財産などは、自助・共助で守り抜かなければなりません。舞鶴市では、有害鳥獣への対策や、地域の取り組みを支援する補助事業を行っています。支援の内容や、具体的な対策事例は、市ホームページに掲載しています。下コードからアクセス可。



## 舞鶴市が取り組む鳥獣対策

農作物や生活環境を守るため「防除」と「捕獲」の両面から対策を強化しています。

令和7年度の有害鳥獣捕獲実績数 2,596頭

1日あたり約12頭(※)

※有害鳥獣の捕獲期間である4月～10月に捕獲した数



おりの貸与も実施



農地を守る防護柵



設置方法の指導

### 鳥獣の捕獲

特に被害の大きいシカとイノシシは、重点的に捕獲しています。舞鶴東・舞鶴西・加佐支部の猟友会と協力し、令和7年度は2,596頭を捕獲、人の生活圏へ侵入する鳥獣の駆除に取り組んでいます。また、地域での被害や要望がある場合はニホンザル、ツキノワグマの捕獲も行っています。

### 防護柵の設置

農地への侵入を防ぐため、毎年10ヶ所以上の防護柵を設置し、昨年度は20ヶ所もの設置となりました。鳥獣害による農業の衰退は、単なる産業の問題にとどまりません。農村の荒廃は、動物の勢力圏を市街地へさらに拡大させることになり、農村を守ることは市内全域の安全な暮らしを守ることに繋がります。